

NPO法人 ふろんていあタウン工房

# ふろたん通信



2016年 2月 19日 広報センター

No. 13

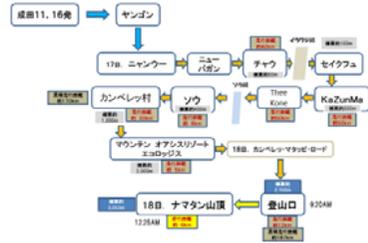
## MT.VICTORIA PROJECT

### 特集 第3次調査隊報告 (1/20 新宿アイランド UR 食堂にて)

2015.11.16~22 ナマタン(英語名ビクトリア山)に、トレッキングルートの自然植生・山麓の村の環境調査に遠征したメンバーの帰国報告会が行われました。3度の遠征の取りまとめ役としての綿密でパワフルな活動報告を聞き、皆で語り合いました。(出席者 24名)



森下・森田・瀬川3氏



今回の調査工程見取図

### ■1日目(11/16) いざ出発!

AM11:45 成田発 PM4:20(PM6:50) ヤンゴン着  
民族衣装ロンジー姿のガイド/チョーさんが出迎え。ヤンゴン市内はバイク乗り入れ禁止で大渋滞。夕食後にホテルへ

### ■2日目(11/17) ヤンゴンから登山基地カンペレハ

AM6:05 発 プロペラ機でイラワジ川500km北上シバガンへ飛ぶ。ニューバガンでチョーさんの実家(軽食堂)で朝食(モヒンガー)。あっさりとしたスープに冷麦の様な米粉の麺が美味しい。

日本車2台(トヨタ/ランドクルーザー、三菱/パジェロ)で移動。チン州まで7~8時間。道は凹凸の舗装路。かなりスピードで振動が激しい。車窓からは高床式の粗末な住宅がまばらに建っており、ところどころに飲食店らしきものもある。

どこまでも平坦な原野や畑が広がる中をひた走る。時々人が荷物を頭の上で歩いてる姿を見る。集落らしきものは全くなし。油井が点在する乾燥地帯にさしかかる。油井地帯を抜けたチャウ村の

市場は日用品雑貨、衣類、生鮮、果物、穀類、肉・魚、貴金属店等々何でも売っている。集落の小学校は、高床式の粗末な校舎で全校生徒20人ほど1年生から5年生。複式授業で先生は2人だけ。丁度昼休みの子供達が大人と同じ様のタナカを顔に塗って出迎えてくれた。

車は建設中の橋を横目にソウ川の清流を渡河して、ようやくチン州のソウの町に入り平坦な地形も終わり、緩やかな登り勾配となってくる。ソウは比較的大きな町だ。立派な寺院や病院、高等学校もあり、市街地には商店、住宅も多い。徐々に標高が上がりナマタンを抱く山岳地帯が遠くに聳えている。途中あちこちの道路工事で徐行や停止をする。道路工事は家族総出で働いており素手で石を並べ砂利を敷き撒かれたター



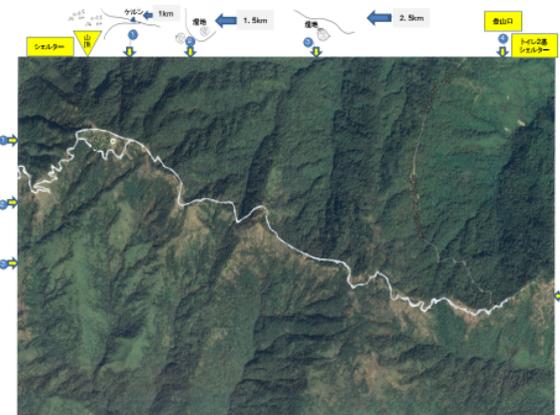
ルに14~5才の女の子がザルで砂を運び、他の子が手で広げてゆく。  
午後2時30分に標高1,300m平地にあるナマタン国立公園事務所に到着。事務所は小さなビジターセンターと事務所、宿舎、公園内の貴重なデンドロビウム(ラン)の植物園で構成されている。ランの見頃は雨季の5月だそう。女性副所長のヌエニ・ミソウーさんと女性スタッフが対応してくれた。訪問の意図を伝え、公園レンジャーのご主人アウン・ティーさんが明日からのガイド随行してくれることになった。標高2,000mに建つスカイパレスホテルに午後4時過ぎに到着、木造のコテージは綺麗で落ち着いたリゾートな雰囲気だ。バルコニーに出ると大パノラマ、雲海に浮かんだ山脈が眼下に黄昏てゆく。

### ■3日目(11/18) ナマタン・トレッキング!!

朝食の後、ホテルが用意してくれたランチボックスを持ち四駆でスタート。悪路を駆け登る。山腹の斜面に櫻が満開。日本のカンピザクラ系のサクラに近い。足元には、馴染みのイタドリが生えている。高山植物は日本とよく似ている。その茎をかじるとミントの爽やかな味がした。

午前9時カンペレツ・マツタピ・ロードと分かれた街道は、インド/インパール作戦で旧日本陸軍の死体が点々と折り重なって白骨街道と呼ばれた、それを思い浮かべながら標高約2,700mの登山口に到着。

9:30 健脚調査班と撮影・植物調査班の2班に別れて登る。道はほぼ尾根の左側にある未舗装のスーパー林道でバイクが数台追い抜いて行ったり下って来たりする。熱帯モンスーンでも11月の高山は小寒い。それでも咲き誇っている高山植物の多さには驚かされた。



秋のキク科 30 種が観られた。可憐なツボスミシヤリンドウが印象的だ。残念なのは樹齢数百年のロードデンドロン（シャクナゲ）の蕾が一斉に開花する 1 週間前だったことだ。

登山道ではフランス人の団体、イスラエル人のカップル、陽気なバックパッカーのドイツ人青年など、欧米人の登山者は多い。頂きに向かう最後の登りでは、麓のチン族の村からやってきた女の子たちが下ってきた。



山頂には AM11:25 到着。頂上には大理石造りのブッダが鎮座し、その周りには供物が並べられている。さすが標高 3,000M を超える山頂は南国とはいえ長く居ると寒いがランチタイム。

13:30 下山開始。帰りの脇道ルートは爽快であったが、足を痛めた M 氏がゆっくりと歩いていると、怪我人を病院に運ぶ小型トラックが止まり同乗しろと、なんと親切で心優しい人達！

登山口着 16:21 (徒歩 14km)

コテージはまだ電気が点かずヘッドランプを点けて荷物を整理。まさか湯たんぼの助けを借りるとは思わなかったが、おかげでゆっくり眠れた。

#### ■4 日目 (11/19) バガンに向かう

朝から雨。朝食とり出発。途中に立寄ったソウの村の小さな保育園では、我々を見ると一斉に子供達が部屋から出てくる。みやげの菓子を渡すと大喜び。お礼に元気な声で 3 曲も歌ってくれた。

今日の運転手は山道でも飛ばし、一般道でもクラクションを鳴らし遅い車やバイクを蹴散らしスピードを落とさない。行きに比べてかなり早くバガンに到着。

バガンのホテルはレンガ風の建物でプール付きで快適。夕食までイラワジ河までブラブラ散歩に出かける。夕方でも外は暑い。丁度太陽が沈み始め、パゴダや寺院がシルエットとなり雄大な景色だ。対岸に丁度渡し舟が出るところで沢山荷物をかかえた人達が乗っている。川で沐浴する女性や、近くの井戸で汲んだ水を大きな容器に入れ荷車で運ぶ人達がいったり、見るもの全てがめずらしい。

夕食はディナーショー、立派なレストランで民族舞踊や操り人形劇などを最前列の席で見物。日本人観光客の団体も大勢来ている。ナマタン調査のミッションから解放されショーを見ながらゆっくりと食事を楽しむ。



#### ■5 日目 (11/20) バガンの遺跡めぐり

朝からのバガン遺跡観光は、比較的小さなピウ・レティ・パゴダから登る、確かに穴場で遺跡群への見晴らしも 360 度のパノラマで素晴らしい。その後、シュエズーゴオンパヤー、グビャージー寺院、ティローミンロー寺院、アーナンダー寺院と矢継ぎ早。

午後はタラバー門を潜ってオールドバガンの旧宮城内へ。タピニユ寺院、マヌーハ寺院を巡る。タピニユ寺院にある日本人慰霊碑をお参りする。

バガン近郊のミンカバー村は、竹細工や漆細工、建築材となる竹製品加工を生業とする素朴な観光村だ。沿道では、婦人たちが竹を割いて、床や壁、天井、屋根材を編んでゆく。ミャンマーの一般的民家は、オール竹材製の通気性が高く涼しげな高床式住宅だ。

その後のシューサンドーパゴダでは、急な石段を恐る々登り、イラワジ川に沈む夕陽を眺める。多数のテラスは多国籍な人々で満席だったが、ここでの夕景は絶景だ。

#### ■6-7 日目 (11/21-22) 再びヤンゴンそして成田へ

5 時起き。朝 8 時 25 分発便でヤンゴンへ。

10 時から最後のヤンゴン市内観光だ。巨大な涅槃像が聳えるチャウタツジーパゴダへ。全長 70 m の巨大な涅槃像は、口紅、長い睫毛にアイシャドー、頬に紅と女性的な艶めかしく、どこかオカマの様である。午後はアウンサウン将軍の名を冠するポーショーアンサンマーケットを訪れた。観光客向けの巨大な百貨店風のショッピングモールである。隣接して鉄道駅があり、日本製の車両が行き先表示もそのままに走っている。

最後の見学/ミャンマー最大の聖地シュエダゴン・パゴダはさすがに大勢の参拝者や観光客で賑わっている。広大な境内に大小のパゴダや寺院が有り中には色々な仏像が納められている。最大の黄金に輝くパゴダの上部には 4,351 個、トータル 1,800 カラットのダイヤが納められ、先端のダイヤは 1 つ 76 カラット。あちこちに跪き、熱心に祈る人々や着飾った得度式の一行も居る。



ライトアップされたパゴダは黄金色が更に輝きを増し美しいが、夕食に向かう道はあいかわらずの大渋滞。空港へ行く途中のレストランでミャンマーでの最後の食事。食後に空港へ到着。

PM22:10 発 ANA NH814 便で成田へ。

**第 3 次隊が持ち帰った記録・写真等豊富な調査データは、今後の活用に向けて現在検討・整理中、いろいろなカタチで皆さんに発信・提供していきます。今号の報告では、瀬川さんの「ミャンマー雑記」と森下さんの「ナマタン紀行」を参考にさせていただきました。**

\*\*\*\* その他連絡事項 \*\*\*\*

□第4回ひろたんインタビュー「植物園鑑で森守れ」が、HP にサイトアップされています。

□ミンガラバーユネスコクラブから「ミャンマー語勉強会」のお誘いがありました。

2/29、3/14、28 の 19:30 ~ 場所:高円寺「ぼれやぁれ」:希望者にご連絡ください。

「新編集長」朝倉(首都圏ケーブルメディア所属):「今回号から担当。読みやすい紙面が目標です！」

「新年度会費」の徴収 3 月から始めます。(正会員 1 万円、助賛会員 5 千円)

ネット又は郵便でご連絡しますのでよろしくお願します。

事務局(会計担当)高田

\*\*\*\*\*